



Data

監督：李仁港（ダニエル・リー）
 出演：劉德華（アンディ・ラウ）／マギー・Q／洪金宝（サモ・ハン）／安志杰（アンディ・オン）／吳建豪（ヴァネス・ウー）／劉松仁（ダミアン・ラウ）／岳華（ユエ・ホア）／狄龍（ティ・ロン）／陳之輝（チェン・チーフイ）／濮存昕（プー・ツンシン）／王海峰（ティン・ハイフォン）

👁️👁️ みどころ

「三国志」を2時間弱で完全映画化？そりゃ絶対無理。この映画は「The Life of 趙雲」。超有名な劉備の妻子救出劇が前半のハイライトなら、クライマックスは五丈原の戦いならぬ、鳳鳴山の戦い。そこに対峙するのは曹操の孫娘、曹嬰。さて、そんな史実ってあり？そんな頭の固いことを言っただめ。映画は想像力の芸術として楽しまなくちゃ・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□ 『三国志』 をこんな視点から切り取れば ■□

呉宇森（ジョン・ウー）監督の『レッドクリフ Part 1』（08年）の大ヒットにあやかっただけではないだろうが、邦題を『三国志』とした李仁港（ダニエル・リー）監督の映画が日本でも公開されることに。しかし、2時間弱の1本の映画に、どうやって『三国志』のストーリーを入れ込むの？しかもプレスシートには、「不滅の歴史最高傑作『三国志』、完全映画化」と書いてある。これってホント？誇大宣伝では？

そう思って映画を観ると、この映画は蜀の五虎大將軍の1人趙雲子龍に焦点をあてて『三国志』を切り取り、彼の生きざまと死にザマをドラマティックにまとめたもの。したがって、当然『三国志』の完全版ではなく、いわば「The Life of 趙雲」。

■□ 原題は？ ■□

この映画はハリウッド映画ではなく、純粋の中国映画。しかし、その原題は中国語ではなく、『THREE KINGDOMS: RESURRECTION OF DRAGON』という英語。それを日本語に直訳すれば、「3つの王国」がメインタイトルで、「龍の復活」

がサブタイトル。

「3つの王国」が魏、呉、蜀であることは明らかだが、「龍の復活」とはさてどういう意味？私は、趙雲の字は子龍だから子龍（＝趙雲）が年老いてからまた若い時と同じように復活して戦うという意味に理解したが、それでオーケー・・・？

■□■エッ、こんな人物が！ その1 ■□■

時代は西暦208年。映画は若き日の趙雲（劉徳華／アンディ・ラウ）が太平の世を実現すべく、蜀の君主劉備玄德（岳華／ユエ・ホア）の軍に入隊するシーンからスタートする。その面接（？）をするのが、平安（洪金宝／サモ・ハン）。故郷を遠く離れて劉備軍に参加してからすでに2年。故郷に帰りたい気



『三国志』 リリース日:2009年7月24日(金) レンタルDVD 品番:RAD-67481
発売・販売元:(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
(c)Taewon Entertainment Co., Ltd. and (c)Visualizer Film Production Limited. All Rights Reserved.

持を抑えて戦闘に明け暮れていたが、趙雲が同じ故郷だと知って平安は何かと趙雲の面倒を見ることに。趙雲はそんな平安を兄と慕い、目の前に迫る曹操（劉松仁／ダミアン・ラウ）の大軍と今、対峙していた。『三国志演義』の中にこんなストーリーがあるの？そんな疑問を抱きながら映画鑑賞後プレスシートを読むと、平安はこの映画のために作り出されたオリジナルキャラ。

なるほど、「The Life of 趙雲」を映画化するためにこんな平安というキャラを作り出したわけだ。①趙雲が 五虎大將軍の一人になるまでは兄貴分として、②その後は趙雲だけが脚光を浴びることに嫉妬しながら、遠くから見守る立場で、そして③最後には全く意外な役割を果たす男として、平安は映画全編にわたって大いなる存在感を示している。したがって、もしこの映画から助演男優賞を選ぶなら、断然平安を演じたサモ・ハン！

■□■エッ、こんな人物が！ その2 ■□■

日本人の多くは魏の曹操は策略家、陰謀家で狡猾な悪いヤツと思っているが、この映画

でも基本的にそれは同じ。劉備玄德と諸葛孔明を善玉にしようとするれば、必然的に曹操を悪玉にしなければならぬわけだ。しかし、ホントはそれって少しかわいそう。

映画前半に曹操の隣に座る可愛い女の子が登場するのでビックリしたが、それが少女時代の曹操の孫娘である曹嬰。そんな曹嬰が成長し（マギー・Q）、曹操亡き後は、魏の大都督（司令官）として趙雲率いる北伐軍、つまり魏征伐のための軍と対峙するからお立ち会い！

この映画の主役は圧倒的に趙雲を演ずるアンディ・ラウだが、キャストの序列でその次に並ぶのが成長した曹嬰を演ずるマギー・Q。曹操亡き後、魏を率いたのは曹丕ではなかったの？そんな疑問を持って映画鑑賞後プレスシートを読むと、この曹嬰も映画のためのオリジナルキャスト。そりゃそうだろう。日本では卑弥呼という女帝がいたらしいし、ヨーロッパではジャンヌ・ダルクやエリザベス1世がいたが、三国志の時代に女性が大軍の司令官になったなどという話は聞いた事がない。何とも荒唐無稽なキャラの登場だが、映画を面白くするためにはその程度の史実無視はオーケー？



『三国志』 リリース日:2009年7月24日(金) レンタルDVD 品番:RAD-67481

発売・販売元:(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

(c) Taewon Entertainment Co., Ltd. and (c) Visualizer Film Production Limited. All Rights Reserved.

この曹嬰は祖父譲りの策略家らしい。追い込まれた趙雲もそれは認めざるをえないようだ。しかしいくら何でも、常勝將軍で五虎大將軍ただ一人の生き残りである趙雲に対して曹嬰が一对一で勝負を挑むのは無茶。映像としては確かに面白いが、そこまで「ありえねー」展開にしなくてもよかったのでは・・・？

■前半の見せ場は、妻子の救出劇■

『レッドクリフPart1』でも長坂（ちょうはん）の戦いにおいて、趙雲による劉備玄徳の妻と幼い子供の救出劇が前半のハイライトだったが、それは「The Life of 趙雲」でも同じ。だって『三国志』の中で趙雲がヒーローになるのは、この救出劇における獅子奮迅の働き（だけ？）なのだから。

その描き方については両作品ともエンタメ色が強いが、エンタメ性とリアル性をギリギリ両立させていた『レッドクリフPart1』に比べて、「The Life of 趙雲」

はエンタメ性をとことん徹底させている。そのため背中に赤ん坊をしっかりとくくりつけた趙雲が、ただ一騎で曹操の大軍に立ち向かってこれを蹴散らし、曹操の剣まで奪って脱出するという離れワザを見せてくれる。一人で数十人の兵士に立ち向かうならともかく、何百人もの兵士を一人で蹴散らすという、「白髪三千丈」的な描き方はいかにも中国映画だが、エンタメ性に徹すればこれもオーケー・・・？

■□■あの兜のデザインは？■□■

この映画の戦闘シーンの迫力はなかなかのもの。ワイヤーアクションも少しはあるが、リアリティあふれるものが多い。また、趙雲の長槍の操り方はもとより、関羽の龍月刀、張飛の長槍の腕前もしっかりしたもの。また、趙雲が劉備から授かる鎧もカッコいいし、兵士たちが着ける鎧姿もビシッと決まっている。さらに弓矢戦法や戦車戦法も面白いし、曹嬰が弾く楽器の音色やその使い方も味わい深い。

しかし、私がつだけ気に入らないのが兜。なぜ、趙雲をはじめ兵士たちはあんな縁のある兜をかぶっているの？鄧芝だけがなぜか決戦に向かう時も兜をかぶっていないことの不自然さと合わせて、この点だけが私には少し不満・・・。



『三国志』 リリース日:2009年7月24日(金) レンタルDVD 品番:RAD-67481

発売・販売元:(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

(c) Taewon Entertainment Co., Ltd. and (c) Visualizer Film Production Limited. All Rights Reserved.

■□■クライマックスは鳳鳴山の戦い■□■

私は『三国志』国際スタンダード版全20巻のうち、1から3巻を劇場で観た(『シネマルーム5』165頁参照)が、1巻90分としても20巻全部を観るのは大変。この国際スタンダード版でもきつと中盤のハイライトは「赤壁の戦い」、そして終盤のハイライトが「死せる孔明、生ける仲達を走らす」との名言を生んだ「五丈原の戦い」だ。しかし、この「The Life of 趙雲」は五丈原ではなく、最後の戦いの舞台を趙雲の思い出の地である、鳳鳴山に設定し、「鳳鳴山の戦い」をクライマックスとした。

魏に対する北伐は蜀が残るためにどうしてもやらざるをえない戦略目標だったが、稀代

の軍師諸葛孔明の策をも
ってしても成功しなかつ
た。既に五虎大將軍のうち
関羽、張飛、黄忠、馬超は
死亡し、残るは趙雲のみ。
2代皇帝劉禪に代わって
指揮をとる孔明は4度目
の北伐の將軍に関羽の息
子関興（呉建豪／ヴァネ
ス・ウー）と張飛の息子張
苞（丁海峰／ティン・ハイ
フォン）を指名したが、そ
こに「なぜ、俺に指名が
からないのだ！」とばかり
に登場したのが趙雲。さて
そこで、孔明が立てた戦略
とは？

趙雲のカッコ良さを引
き立てるため、孔明ですら
冷酷な策士風に描いたり、
ある男の裏切りを想像さ
せたりする演出には少し
ビックリだが、クライマッ
クスに向けて趙雲の英雄
性を高めるためには、その
悲劇性を強調するのは効果的。既に関興と張苞の部隊と別行動となった趙雲に付き添うのは、副将の鄧芝（安志杰／アンディ・オン）以下の部隊のみ。それに対して鳳鳴山に追い込まれた趙雲を囲うのは、曹嬰率いる10万の大軍。さあここで趙雲はいかなる最後の戦いを？

若き日の長坂の戦いにおける獅子奮迅の戦いぶりもカッコ良かったが、老体にムチ打ちながら蜀のために最後のご奉公をする趙雲の戦いぶりもカッコいい。そんなクライマックスシーンは、じっくりあなたの目で。



『三国志』 リリース日:2009年7月24日(金)

レンタルDVD 品番:RAD-67481

発売・販売元: (株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

(c)Taewon Entertainment Co., Ltd. and (c)Visualizer Film Production Limited. All Rights Reserved.

■オリジナルな演出と各種エンタメ要素の調和は？■

ダニエル・リー監督は、レスリー・チャンと常盤貴子が共演した『もういちど逢いたくて 星月童話』（99年）で有名だが、私が彼の作品を観たのは今回が初めて。2時間弱で『三国志』をどのようにまとめるのか心配していたが、テーマを「The Life of 趙雲」としたうえ、最も有名な長坂の戦いにおける劉備の妻子救出劇はきっちり押えつつ、新しいキャラ2人の創出や史実にこだわらないクライマックスシーンの創出等、この映画の演出はダニエル流のオリジナリティがいっぱい。また、ストーリーの基本軸を歴史と戦争に設定したうえ、そこに策略と裏切りという味付けを加え、他方平安との友情をストーリーの底流としたうえ、ごくわずかな時間で若き日の趙雲の恋模様も描くなど、2時間弱の上映時間内での各種エンタメ要素の調和はお見事！

「The Life of 趙雲」を楽しみながら、『三国志』の一端を十分満喫できるはずだ。

2009（平成21）年1月31日記



LAWDESHOW

三国志

(きょうから数島シネポップほかで公開)



©TAEWON ENTERTAINMENT CO.LTD. and ©VISUALIZER FILM PRODUCTION LIMITED. ALL RIGHTS RESERVED.

「レッドクリフ」とは一味違う『三国志』も！

「三国の礼」で始まるを混在させた独自の物語。色を抑制するのは、平安（黄金色）というキャラの創設。妻子の護衛失敗は首謀の兄貴分だった彼が、その救出に奮起する。そのため、同輩の同志がたはずの平安の嫁、妬み心鬼の意外な展開の要因になるから、そんな人間ドラマにも注目！ 原は固執しない本作のクライマックスは、「死せる孔明、生ける仲達を運ぶ」で有名な五丈原の戦いではなく、劉備の孫権襲撃と趙雲の決戦。既に先常は生き残り趙雲のみ。魏の征伐は二代皇帝劉禪に仕える軍師孔明の苦肉の策だ。趙雲は今では関羽と張飛の息子らと共に出陣したが、孤立した趙雲の命は今や風前の灯。それは一体なぜ？孔明が授けた策に何か欠陥があったの？ それとも誤用の創作キャラだが、あの時代にはありえぬ。マザー・Qの Катコがいい大抱きで、カコが奏でる黄色の動く曹魏軍の演出に注目！ 最後の見どころは趙雲と趙雲の一騎打ち。その結果はミエないが、英雄の最後の妻とは？

「三国志」は幾多の英雄・豪傑が活躍する重鎮たちが陣取り争いに分かれて戦い合う壮大な歴史絵巻。それを一本の物語として、そんな無茶な夢を表現したのが本作。監督森繁久彌は「レッドクリフ」で、赤壁の戦いに焦点を当てたが、李「抱腹」は劉の武将趙雲の生涯に着目し、史実と想像性を

大阪日日新聞 2009（平成21）年2月14日